

●事業内容

1. たたら製鉄の歴史と技術を保存、公開、実践することで日本の鉄文化を保護継承していく活動
(公益目的事業)

1) 講演会の実施

鉄の歴史文化、歴史資料の研究成果公開のため、鉄の歴史村フォーラム及び博物館講座を開催した。また、たたら製鉄技術の研究及び和鉄生産、加工の技術伝承者育成のため、近代たたら操業を実施した。

①鉄の歴史村フォーラム2013

テーマ：奥出雲三大鉄師のたたら経営～田部家、絲原家、櫻井家の調査を終えて～

期 日：平成25年11月9日(土) 14:00～16:30

場 所：チェリヴァホール 大ホール

講 師：相良英輔(島根大学名誉教授、広島経済大学大学院教授)

参加者：253名

参加料：1,000円(賛助会員は無料)

要 旨：

第一部：「三大鉄師を通してたたら経営の歴史を考える」

平成14年から3か年計画で絲原家の古文書調査が始まり、その翌年から櫻井家の古文書調査も同じく3か年計画ではじまり、平成20年からは田部家の古文書調査に着手し、4年後の平成24年3月に田部家の古文書調査も終わりました。これらの調査は御三家に大きく支えられて可能であり、15名の調査員と行政関係者がいてはじめてできたことです。その成果ついて骨格をお話ししていきたいと思えます。

まず、この古文書調査「報告書」が発刊される前と、発刊後では、どのような著作や論文がまとめられ、研究されていたか比較しその内容を確認したいと思えます。

「報告書」発刊前のたたら研究として『新修島根県史』の史料編がよく知られていますが、ほかに向井善郎氏、武井博明氏、土井作治氏、高橋一郎氏、山崎一郎氏の著作や論文などがあります。これらの研究は主に絲原家と広島に加計家文書による成果です。

「報告書」発刊後、つまり2005(平成17)年の3月に『鉄師絲原家の研究と文書目録』が発刊されて以降のたたら研究として、田部家の古文書調査に入る前に島根大学でまとめられた報告書や櫻井家、田部家の古文書調査報告書、道重哲男氏、野原建一氏、鳥谷智文氏、山崎一郎氏による著作や論文などがあります。「報告書」発刊以後のたたら研究は、多くの未公開史料が公開されたことにより、かなり精密な研究が可能になりました。今後、研究者同士の論争を経た後、近世期以降300年のたたら製鉄業のかなり詳しい歴史の変遷がわかってくると思えますし、研究が進むことを期待しています。

御三家の古文書調査の成果ですが、絲原家では、山林の売買証文がほぼ全て保管されており、地道に買い集めたことがわかったこと、重要な史料を改めて翻刻しなおしたところ、正しい史実が把握できたこと、明治時代の史料から江戸時代の経営をうかがい知ることができ、経営の実態が把握できたこと、などです。

櫻井家ではほぼすべての史料が未公開であったため、その膨大な史料に調査員は大変驚きました。成果としては、絲原家同様、山林の売買証文が残されており、鉄山の集積過程を知ることができたこと、「覚書」(1714(正徳4)年)の分析から、櫻井家が大坂問屋と深い結びつきがあったこと、江戸中期から後期にかけての「宗門御改目録」から、山内労働者の実態が詳しくわかりました。すなわち山内労働者の藩域を超えた婚姻や、一家族で一軒家に住んでいたことなどがわかりました。それまでの山内の閉鎖的なイメージがかなり変わりました。

田部家では、近世前期の古い史料が数多く発見されました。吉田町に関する1657(明暦3)年や1865(元治2)年の史料から、吉田町は17世紀中ごろの原型を今日まで保っていることがわかります。町の歴史の古さが改めてわかったと同時にその子孫の方が現在もそこに住んでいると推測でき、たたら経営の古さを実感しました。

さらに、1799(寛政11)年、1809(文化6)年の「鉄方御用留」からは、松江藩はそれまでの主流である銑鉄生産から利益を得やすい割鉄生産を推奨していることがわかります。そして増し鍛冶屋を認め割鉄生産の増加を容認し、幕末にはほとんど割鉄生産になっていきます。

幕末の菅谷鉦の生産は、東北や北陸への農具に対する需要の伸びで市場を拡大したと考えられますが、外圧による緊張から海防への関心が高まり、大砲などの武器をつくるための需要の拡大も無視できません。(幕府が佐賀藩などへ大砲を大量発注した)

一方で幕末は西洋式の高炉による生産の取り組みが始まり、1895(明治 28)年に高炉銑は砂鉄銑の生産を凌駕しました。それまでの鉄の用途とは異なり、近代産業の発達により鉄は莫大な量を必要とするようになり、わずかな量しか生産できないたたらは衰退の一途をたどります。1904(明治 37)年、八幡製鉄所での銑鋼一貫生産が確立されますが、たたら技術は直接的ではないにしろ、銑鋼一貫生産の確立に向けて、多くの刺激と示唆を与えました。

第二部：「調査報告書に対する御三家のご意見と講師の希望」

／絲原家当主 絲原徳康、櫻井家当主 櫻井誠己、田部家当主 田部真孝

絲原徳康

絲原家は、寛永元年、1624年徳川家光の時代から始まり、備後国帝釈峡から大馬木村に居移をし、九代目の忠三郎の時に現在の地、雨川に居を移して参りました。現在私で15代目です。中山間地や私どもの家自体を取り巻く環境は大変厳しく、次世代へどのように引き継ぐかを苦慮しているところです。本日こういう場に立たせていただき光栄に存じております。

櫻井誠己

私ども可部屋は現在上阿井で可部屋集成館を開設しております。先祖は1615年大坂夏の陣で討ち死にをした塙 團右衛門で、長男が広島城の福島正則に仕えておりました。その後、二代目が現在の広島県安佐北区の可部に移り住み鋳物業を始め、その後は高野へ移り住み、二代から三代へわたってたたら製鉄をはじめたと伝えられております。三代目は県境を超え上阿井に移り住み、兄弟が田儀櫻井と名乗って現在の出雲市奥田儀に居住し、上阿井と田儀でたたら製鉄を営んでいました。私の父親である三郎衛門が90歳になりますが健在で13代の当主です。私で14代となる予定ですが、何とか次世代へつなげたいと考えております。

田部真孝

私ども田部家は、もともとは姓が「田辺」でして、鎌倉時代に和歌山県田辺を拠点とした熊野水軍の田辺湛増を遠祖とし、その一派が中国地方に来たのですが、室町時代の彦左衛門が初代となります。彦左衛門がこの地でたたら製鉄を始めたため我々の家では“鉄山元祖”と呼んでいます。そこから数えて現在私で二十五代目となります。私は前のお二方よりだいぶ若輩で、14年前父が他界し、3年前にこちらにもどって当主をしております。田部家は代々長右衛門を襲名しておりますが、まだ真孝と名乗っております。本日はこういう貴重な機会を与えていただき、たたらをもう一度勉強したいと思っております。

相良英輔

ご当主の皆様には調査報告書に対するご意見と行政への要望、それに限らず皆様がお感じになったこととお話しいただきたいと思っております。

絲原徳康

絲原家の古文書は、村史、町史、県史を通して、武井先生や内藤先生に整理していただいていること、加えて私たちの記念館の運営委員でありました地元の高橋一郎先生に相当調べていただいております。記念館の財産として、最終的に21項110種2435件に分類し登録しております。

相良先生をリーダーとし、県や町に尽力いただきあらためてしっかり調査をして報告書ができたことに感謝申し上げます。これらの古文書は家にとってとても重要なものですが、かび臭かったり虫くいであったり決してきれいなものではありません。また古文書は難解で、ふすまの裏などに貼ってしまったものもあり、価値のないものと正直思っていたものです。しかし、たたら製鉄の生産は日本刀の材料である玉鋼と想像しますが、生産の最盛期は鋼づくりではなくて流れ銑や大鍛冶で再度加工した包丁鉄の売上が約四分の三であるという史実が古文書から判明したわけであります。

古文書保管は虫の燻蒸作業が終わったものから袋に入れて衣装ケースに入れ、収蔵庫へ保管しています。湿度・温度管理をする必要性を感じながら、小さい館ですので運営に余裕もなく、ここまでしかできていないのが実状です。

相良英輔

先ほどのお話では、古文書の管理について苦勞されており、一般的に史料を所有する皆さんが私費を割いて維持されています。このことについて個人任せでいいのか、行政にも手を差し伸べ

て支えてもらってはどうかと思います。

櫻井誠己

古文書の管理の面で、相良先生がおっしゃったように、解説いただいた史料はほとんどが未公開のものでしたが、祖父の代までは、そういった古文書は人に見せるものでないと言われていました。しかし時代が変わり、資料館を立ち上げ、いろいろな方から情報を集めたり、郷土史家の方にご努力いただいたりし、可部屋のたたら製鉄という形で公開しました。その後づけでこれらの史料が出てきているので、解説をして展示資料につけ加えました。そうした中で、新たにきちっとした形で本にまとまったということは、一つ一つの文章を研究者に読んでいただく以上に流れがわかるようになり、現在は広く一般の皆様に一冊の報告書で見ただけできるようになりました。

一方、保管という面では、調査以前と似たような状況で、原書は段ボール箱に入れて保管しておりますが、それを出して閲覧をする、読むということは非常に手間がかかり対応できず、今以上の管理は現実的には難しく、すぐには結論が見いだせないと感じています。IT時代でありますのでデータ化という方法があると思いますが、個人ではできない問題で、今後、生の史料の保存管理についてはいろいろな方の知恵をお借りしないといけない難しい問題だと感じております。

相良英輔

今の櫻井様の意見をお聞きし思うのですが、ご自分の家の資料を他の人に見せるのはとても勇気がいることで、通常はあまり人に見せたくないのが普通です。公開しないという選択も当然あり得ると思います。しかし古文書が大きな働きをすればするほど、個人を超えて地域、あるいは県全体、また日本経済のことに関わる事実がわかり、それに対して歴史を明らかにすることができるのですから、見せて欲しいという要望も当然出てきます。そこに入った研究者に史料を見せれば何でもわかってしまうということは所有者側からすれば、必ずしも好ましいことではありません。そこに当然、葛藤があると思います。管理の面でも、私は絲原家の所でも申し上げましたけれども、行政と話し合いをしながらどうするのか努力していくべきだと思います。

田部真孝

私どもの家でも櫻井様からお話しがありましたように古文書は見せるものではない、いわゆる門外不出でした。この古文書調査をしていただくことは母が決断しましたが、私はその考えに大賛成です。田部家ではそれらの古文書は個人で、蔵で管理しておりますが、膨大な量があり、常日頃取り出してきて読むということもありませんし、出してきてもとても読めませんので、研究者の方々にきちんとした報告書にさせていただいたことは本当に有難い限りです。特に私の父は早くに亡くなっており、生まれたときには祖父もおりませんでしたので、いろいろな話を聞いていません。私にも今月4歳になる息子がおりますので彼に話しをしていく上で、歴史的な裏づけがあることをきちっと伝えていきたいと思っておりますので、本になっているのは家としても有難く、わかりやすい形でつなげていくことができます。

たたらについては中国地方で主要な産業であり、私どもの史料を紐解いてわかりやすくかみ砕いて後世へ伝えていくことが必要だと思います。祖父の代にはお見せした史料が返却されなかったりしたことが多少あったように聞いております。このようなことがないように、史料の管理は重要ですので個人ではなく、やはり湿度・温度管理がきちとなされたところで保管されるべきだと思います。

相良英輔

田部家の調査をしながら、大正7年の預金通帳が出てまいりまして、論文に掲載したいと真孝様のお母様の田部陽子現会長に相談しましたら、快く公開していいと言ってくださいました。その時、公開するということはそういうことを含めて覚悟されていたのだと改めて思いました。通帳を公開してどうなるのかと思われるでしょうが、他の財産も全部です。一般的に大正期は経済史の中で、土地で資産を拡大するより株式購入が急激に増えていく傾向がありますが、全国的にどの家でもそうなっていて、政府が工業の発達を促進するため農村の余った資金を都市に流す意図で、株式購入をすると税金が安くなるという政策が推進されるわけですが、この時の通帳はその実態が多少わかるものでした。これは個人の史料ですが日本の経済全体の流れを表現することになり、できれば見せて欲しいと陽子会長に説明しました。

こういう例もありまして、個人の史料を見せていただくことについては、研究者はかなり気遣いが必要になると思います。

・今後の活用と希望について～調査リーダーの立場から～

相良英輔

御三家の当主にご意見を伺いました。いうまでもなく私は御三家と御三家の史料のおかげでたたら研究者になり、御三家の協力なくして報告書発刊はできませんでした。感謝するばかりですが、島根のたたらを全国へいかに発信していくか多少の要望をさせていただきたいと思います。

一つ目は、保存活用を御三家にお任せするのではなく、行政と連携して話し合っていないといけません。二つ目は、行政で古文書を読むことのできる人材を育成していくべきだと思います。考古学の場合、県に埋蔵文化財センターがあり専門家が育っていますので、教育委員会などに専門家がいるということが非常に重要であると思います。現在は市や町によってバラツキがあり、そういった人材がいると地域住民のために古文書講座をしたり、地域貢献ができ成果を地域に還元できると思います。

本日は、市と県の代表者がおそろいですので、この二点について一言いただきたいと思います。

速水雄一

古文書は言うまでもなく個人の資産ですので、行政がどこまで個人の資産である古文書を管理するか、所有者である個人と行政の住み分けを明確にしないといけないと思います。行政の受け皿ですが、雲南市や奥出雲町のほかに、安来市も関係が深く、二市一町で形成する鉄の道文化圏も適切かと思えます。その文化圏と、研究者の皆さまと協力し、対応についてさらに多くの方と協議したいと思います。報告書を住民の目線で読める形にしていく、例えばマンガや映画などの方法を模索していけば、より多くの方にご理解いただけるのではないかと思います。

祖田浩志

古文書にはあらゆる時代のものがあり、貴重な史料であればあるほど、守り、より適切に管理していかなければなりません。この文化を守り保管する、活用することは歴史史料や文化財については常に考えておくべきことで、私どもも相談にも加わらせていただきながら、いい方向へ進めたらと思います。

②博物館講座

第 1 回博物館講座「木彫家内藤伸・子安観音像誕生と吉田公園について」

日 時：平成 25 年 4 月 13 日（土）

講 師：江本孝枝（事業団職員）

参加料：300 円

第 2 回博物館講座「吉田町の製鉄の始まり・たたら場の分布と製鉄場所の変遷について」

日 時：平成 25 年 7 月 11 日（土）

講 師：江本孝枝（事業団職員）

参加料：300 円

第 3 回博物館講座「吉田町に残る製鉄の守護神金屋子社（祠）の分布について」

日 時：平成 25 年 10 月 12 日（土）

講 師：江本孝枝（事業団職員）

参加料：300 円

第 4 回博物館講座「現代に受け継がれているたたらと砥ぎについて」

日 時：平成 26 年 1 月 11 日（土）

講 師：吉田利江、杉原和樹（事業団職員）

参加料：300 円

2) 体験事業

体験活動を通じて鉄の歴史と技術を理解し、習得する人材を育成する。

①ものづくり大学

1. 近代だたら操業

期 日：平成 25 年 11 月 12 日（火）～16 日（日）

場 所：雲南市吉田町 和鋼生産研究開発施設

参加者：たたら共同実習生 5 名、技術伝承者 2 名、ほか事業団職員 5 名

スケジュール：

| | | |
|-----------------|------------|-------------------|
| 1 1 月 1 2 日 (火) | 8：00～17：45 | 灰床づくり・炉づくり |
| 1 3 日 (水) | 8：45～14：00 | 炉の補修、炭切り |
| 1 4 日 (木) | 9：00～17：30 | 上釜設置、炉の乾燥、施設見学、座学 |
| 1 5 日 (金) | 9：00 | ミーティング |
| | 9：50 | 安全祈願、火入れ式 |
| | 10：25 | 火入れ |
| | 14：10 | 初種 |
| | 17：50 | 初花 |
| 1 6 日 (土) | 7：45 | 砂鉄最終装入 |
| | 9：30 | 炉の解体 |
| | 10：00 | 鋤出し |

たたら協同実習生には千葉県、岡山県、松江市から鉄鋼業従事の若手社員 5 名の参加があった。

操業中は砂鉄装入、木炭装入、記録などの業務を交代で体験し、ノロ出し作業もスタッフに混じり徐々に要領を覚えて迅速に行えるようになった。作業以外では、今回初の試みとして、宿舎での時間も有効に活用し、事業団理事の田中雅章による座学も取り入れた。

技術指導は事業団職員の杉原和樹を技師長とし、スタッフと 2 名の技術伝承者が役割を分担し準備作業から行った。一昨年、昨年と 2 年間、雑炭での操業をうまくコントロールできなかったため、過去のデータを改めて検討し 2 点ほど操業方法を例年と変化させ、一点目は、松炭を使用したことと、二点目は羽口の配置を千鳥配置から対面配置にし、配置間隔も変化させた。

松炭操業に戻したことで、操業の経過や鋤の歩留まりは例年並みに回復したが、羽口配置を変え、ノロ出し口付近の状況が従来とは変化したため、操業初期に壁土が一部剥離・落下し炉内でノロ出し口を塞いでしまった。この落下した塊は粘性が非常に高く除去するのがとても困難で、羽口側に落下していたら完全に穴を塞いでいたかもしれない。

前述の壁の落下や、上釜設置の方法により、装入した砂鉄が炉の中で降下しない「棚吊り」状態になり、それを解消するために炉の上面から鉄棒を突き刺し、棚吊りを解消させる場面が後半に多く見られた。

2. 鍛冶体験

ア) 五寸釘のペーパーナイフづくり

期 日：平成 25 年 5 月 4 日 (土)～6 日 (月)、8 月 11 日 (日)

参加者：21 名 (5/4-6 17 名、8/11 4 名)

体験料：500 円

イ) 和鋼刃物づくり

期 日：平成 25 年 7 月 3 日 (水)、平成 26 年 1 月 25 日 (土)

参加者：7/3 2 名 (広島県)、1 月 25 日 1 名 (組) (島根県)

体験料：20,000 円

3. その他体験

ア) 松江工業高等専門学校 3 年生との小だたら操業とそのケラを使った刃物づくり

期 日：平成 25 年 5 月 11 日 (土)～12 日 (日)

場 所：和鋼生産研究開発施設、たたら鍛冶工房

記 録：砂鉄 16.2kg、操業木炭 29kg、ケラ 4kg

人 数：14 名

イ) 掛合小学校 2 年生学年活動への協力

期 日：平成 25 年 6 月 1 日 (土)

場 所：たたら鍛冶工房、鉄の未来科学館、吉田町内

参加者：25 名

ウ) わくわくこども教室への協力

期 日：平成 25 年 8 月 10 日 (土)

- 場 所：たたら鍛冶工房
参加者：10名
- エ) 西野小学校4年生の総合的な学習への協力
期 日：平成25年10月16日(水)
場 所：出雲市立西野小学校
内 容：4年生の総合的な学習での指導
- オ) 吉田小学校5、6年生の小だたら操業体験とそのケラを使った刃物づくり
期 日：平成25年11月21日(木)～22日(金)
場 所：和鋼生産研究開発施設、雲南市立吉田小学校
内 容：小だたら操業と刃物づくり指導
記 録：砂鉄14kg、操業木炭27kg、ケラ1kg
参加者：10名
- カ) 田井小学校5、6年生の小だたら操業体験とそのケラを使った刃物づくり
期 日：平成25年11月27日(水)～28日(木)
場 所：和鋼生産研究開発施設、雲南市立田井小学校
内 容：小だたら操業と刃物づくり指導
記 録：砂鉄16kg、操業木炭28kg、ケラ3kg
参加者：13名
- キ) 佐世小学校2年生学年活動への協力
期 日：平成25年12月1日(日)
場 所：たたら鍛冶工房、鉄の未来科学館、吉田町内
内 容：ペーパーナイフづくり体験、鉄の未来科学館見学
参加者：14名

②鉄・体感イベント

小だたら操業の実演と体験

- 期 日：平成25年9月7日(土)
場 所：雲南市立田井小学校
内 容：深野神楽社中との神楽、たたら操業の競演とたたら操業体験

③うんなん子ども冒険団

[内容] 子どもたちが“楽しみながら学ぶ”をキーワードに、鉄づくりを中心とした体験をすることによって地域の自然や人間の技術を知り、理解する機会とする。

[対象] 小学3年生～6年生

- ア) 山の恵みを知る「森林探検と炭焼きチャレンジ」
期 日：平成25年6月15日(土)～16日(日)
場 所：雲南市内
内 容：たたら製鉄に必要な原材料である木炭について学び、実際に木を切り出し、炭を焼く体験。
参加者：6名
体験料：2,750円
- イ) 川の恵みを知る「いかだで川遊び! トム・ソーヤのチャレンジ」
期 日：平成25年8月4日(日)
場 所：雲南市内
内 容：川原でいかだを作り、河川に入って川の生物とたたら製鉄の原材料である砂鉄を採取し観察する体験。
参加者：7名
体験料：2,000円
- ウ) 人間の知恵を知る「誰が考えた? 砂鉄と木炭の究極の技にチャレンジ」
期 日：平成25年10月12日(土)
場 所：和鋼生産研究開発施設及びたたら鍛冶工房
内 容：たたら製鉄をし、できた鉄で自分だけのナイフを作る体験。

参加者：10名

参加費：1,000円

エ) 大地の恵みを知る「自然を満喫!おいしいチャレンジ」

期 日：平成25年11月17日(日)

場 所：吉田グリーンシャワーの森

内 容：自分で作ったナイフで秋の実りを調理して食べる体験。

参加者：12名(小学生8名、保護者4名)

体験料：小学生2,000円、保護者3,000円

オ) 番外編「雪中かんじきレース!冷たいチャレンジ」

期 日：平成26年2月9日(日)

場 所：山内生活伝承館、たたら鍛冶工房

内 容：山の暮らしに欠かせなかった民具や道具について学ぶ。

実際にかんじきを作り、雪中で昔の暮らしを体感する。

参加者：5名

体験料：1,000円

3) 公開展示施設の運営と活用

①特別展・作品展の実施

1. 銅版アート青木一義作品展

場 所：鉄の歴史博物館

期 日：平成25年4月20日(土)～5月19日(日)

内 容：銅版画、銅版作品、道具の展示

協 力：青木一義氏

来 場：1,115名

2. 鏝絵展

場 所：鉄の歴史博物館

期 日：平成25年7月20日(日)～8月18日(日)

内 容：鏝絵、漆喰作品の展示

協 力：左官伝承会

来 場：778名

3. 鉄の歴史博物館創作館展示(特別展を除く)

| 名 称 | 出展者 | 期 間 |
|----------------|--------------|-------------|
| 鉄の歴史村フォトコンテスト展 | 財団 | 6月1日～29日 |
| 図書 20世紀のできごと | 鉄の歴史博物館 | 9月1日～29日 |
| 記念硬貨コレクション | 古居 豊 | 10月1日～30日 |
| 古銭 | 古居 豊 | 11月1日～29日 |
| 絵手紙と書道教室展 | 福馬幸子、吉田町書道教室 | 12月1日～1月30日 |
| 三刀屋ちぎり絵作品展 | 三刀屋ちぎり絵会 | 3月1日～30日 |

4. ひこうき2

場 所：鉄の未来科学館

期 日：平成25年4月20日(土)～5月19日(日)

内 容：パネル展示、飛行実演

協 力：JAXA、日本航空株式会社、出雲ラジコンクラブ

②委託管理業務

1. 菅谷たたら山内及び周辺施設

2. 鉄の歴史博物館

3. 鉄の未来科学館

4. 地域特産品処理加工施設

4) 表彰、コンクール

鉄の歴史村フォトコンテスト 2013

テーマ : “赤” のある風景

募集期間 : 平成 25 年 8 月 ~ 12 月

応募総数 : 101 点 (前年度 142 点)

賞 : 最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、入選 6 点、代表理事賞 1 点

2. 博物館等公開展示施設における商品の販売 (収益事業)

1) オリジナル商品の開発、販売

ア) 和鋼小刀

イ) 和鋼商品 (携帯ストラップ、鉬ちゃん、鉬ボトル)

ウ) 「菅谷たたらとカツラの木」商品 (ポストカード、クリアファイル、小風呂敷)

2) 委託商品販売

岐阜県関市、高知県香美市、新潟県三条市

3. 管理部門

賛助会員の確保と普及活動

1) 来館者、体験事業、フォーラム参加者等への働きかけ

2) ホームページ、賛助会誌での事業の PR

3) 賛助会誌「たたらの里山だより」の発行 (年 3 回)